

## 令和5年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度からの新教育課程に基づき、第1学年では昨年度の経験を活かし、第2学年では担当教員間の共通認識のもとで、指導と評価の一体化に新たに取り組む。</li> <li>情報端末を用いた学習管理アプリの新たな活用推進計画を継続審議し、家庭学習時間の増加を図る。</li> <li>学校行事を生徒の主体性やリーダー育成の機会と捉え、活性化させる。</li> <li>支援を要する生徒の情報を学校全体で共有することにより、必要に応じて組織的な対応を実施する。</li> <li>いじめの兆候や懸念、生徒からの訴えに対し迅速に対応するため、いじめ防止基本方針を改定する。</li> <li>業務内容の点検・精選等によって働き方改革をすすめ、教職員の健康維持を図る。</li> </ul>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果
防災とPTA活動(総務部)	保護者と学校との連携強化	・PTA活動の活性化とその活用を図る。	・「ミマモルメ」、ホームページ、「興道だより」を利用して情報発信を行い、PTA活動の理解と協力を求めた。これからもより工夫して保護者と学校との連携を強くしていきたい。
	防災教育の推進	・避難訓練の実施と防災マニュアルの整備	・幅広い観点で防災に関する情報を収集し、より実効性の高いマニュアル作りを目指した。まだ工夫の余地があるため、時代の流れに合わせて整備を継続していきたい。
学習指導(教務部)	主体的・対話的で深い学びをもたらす授業展開、学びに向かう力を養う学習指導方法の研究実践	・学習アンケートの実施 ・研究授業の参観 ・ICTの活用 ・観点別の学習補助	・新学習指導要領における指導方法を校内で共有し、スムーズな運用のための研究を進めた。 ・研究授業や研修を通して、主体的な学びおよびICT機器の活用へ向けて組織的に取り組んだ。 ・ICT機器の活用を推進し、生徒の主体的な学習の支援を進めた。
		・生徒面談、学習記録等の活用	・担任による生徒面談、日々の学習記録による振り返り活動により、個々の生徒に合わせた指導が行われた。 ・家庭学習時間を分析し、今後の指導方針についての検討材料とすることができた。
生活指導(生徒指導部)	安全教育の充実	・校外交通安全指導の実施 ・交通安全教育の実施	・早朝の交通指導を年2回実施した。うち1回はPTAと共催で実施した。 ・各定期考査後に下校時交通指導を実施した。 ・毎朝北門と正門で交通指導を実施した。 ・1年生対象に交通安全教室を一宮警察署と連携し実施した。
	基本的生活習慣の確立	・遅刻指導の実施	・遅刻カードを用いて遅刻の可視化を図り、指導につなげた。 ・早朝の遅刻指導や声かけを生徒指導部員と担任や学年所属の教員と連携し効果的な指導になるよう努めた。
	いじめ防止対策の推進	・いじめの早期発見に関わる取組の実施	・学校生活アンケートを1、2年生は年3回、3年生は年2回実施し、いじめに関する項目を必ず入れた。 ・書き込みがあった生徒全員に対して面談を実施し、早期発見や未然防止に努めた。
進路指導(進路指導部)	生徒の適性、能力、志望に応じた進路指導	・適切な進路情報の提供と進路意識の啓発	・進路講演会や進学説明会を実施し、生徒や保護者に対して適切な進路情報を提供するように努めた。 ・大学の講義を体験させることやオープンキャンパスに参加させることを通して、進路に対する意識を啓発することができた。
		・大学入試に向けての指導の充実	・進路検討会を実施し、各大学の情報を共有しながら、生徒の特性や希望に応じた指導につなげることができた。 ・補習や特別講義、個別指導などを通して、各生徒の希望進路の実現に向けての指導を充実させることができた。

保健・環境美化	心身の健康の保持増進	・委員会活動等により、心身	・学校保健委員会では、参加された保護者より、学校医
---------	------------	---------------	---------------------------

(保健部)		<p>の健康や感染症対策に関する啓発活動を推し進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に対する理解を深める。</li> </ul>	<p>の先生方の貴重なお話や学校保健の活動報告等充実した内容であったと肯定的なご意見をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な生徒情報を共有し、適切に対応することができた。</li> </ul>
	校内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化に対する意識を高める。</li> <li>環境美化に関する委員会活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が新しい基準で清掃点検ができるよう、清掃点検カードを刷新したことで美化意識が高められた。</li> <li>美化委員による草花の苗植えを春と秋に実施した。特に秋植えのパンジーが見事な花を咲かせた。</li> </ul>
研修活動 (図書部)	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観の機会を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期と2学期に外部から講師を招き、現職研修を行い、問題行動や発達障害についての講義を受けた。</li> <li>参観授業週間に研究授業が行われることも多く、授業についての感想を伝える場面もよく見られた。</li> </ul>
生徒会活動 (特活部)	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>興道祭、球技大会等の学校行事を通じて、創造力、自主性、協調性、自己有用感など社会に出て必要な人間力を養うことを目標に、各企画への支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任者には Teams を使って連絡を取り、提出物を提出してもらった。また、一般の生徒にはルールを明記したパンフレットを作成することで、受け身ではなく自発的に動けるように工夫した。</li> </ul>
生徒会活動 (特活部) 情報活動 (特活部)	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒がはつらつと日々の活動に参加できるよう支援し、公式戦・コンクール等の結果にも繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部は多くの部活で県大会に出場することができた。</li> <li>文化部は今まで大会に参加していない部も大会に参加し、表彰もされた。</li> </ul>
	開かれた学校教育と情報モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの使用に慣れる。</li> <li>生徒の情報モラルを高める。</li> <li>学校 Web ページで情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Teams や Forms を活用して連絡をしたり提出物を求めたり、アンケートに答えさせることで、タブレットの使用にはずいぶん慣れた。</li> <li>興道祭前に執行部がスマホ使用のプレゼンを行い、興道祭でスマホを使う際にマナー啓発をしたが、一部の生徒にはそれがなかなか届いていない。</li> <li>Web ページでの情報提供は昨年よりはできたが、もう少し頻度を上げていきたい。</li> </ul>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果
第1学年 「社会人基礎力の基礎を醸成」	真剣に学習する姿勢と部活動や学校行事に取り組む姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を大切に、予習、授業、復習の学習サイクル構築を呼びかける。</li> <li>部活動、学校行事に積極的に参加するよう指導する。</li> <li>現在よりも成長し、新たなことに挑戦できるように集会などを通して呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学当初の状態では、小テストや基礎学における勉強方法が確立しておらず、勉強時間の確保が難しかった。教科担当や担任の先生方の声掛けの結果、夏以降では、基礎学などに対する姿勢が改善され、しっかりと勉強する様子が見られるようになった。</li> <li>部活動にはしっかりと打ち込むことができ、学校祭においても積極的に関与する姿が多くみられた。</li> <li>新聞コンクールやジュニアスタートアッププログラムなど学校外の活動に挑戦する生徒もみられた。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や部活動などに集中して取り組むための生活習慣が確立するよう指導する。</li> <li>挨拶の励行、時間や締め切り、ルールを守ることを集会や教科指導を通じて指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学当初は部活動、学習などのバランスに困惑する生徒がいたが、夏休み以降は安定してきたように思える。しかし、一部の生徒は遊びによって睡眠時間が減少している生徒も見受けられるので、担任からの声掛けを継続している。</li> <li>課題の提出ができない生徒が多くみられた。自身で学習時間を調整することができず、完了が遅い生徒がみられる。引き続き、集会などで声掛けをして改善に努めていきたい。</li> </ul>
第2学年 熱量を持つ、主	学習活動・部活動・学校行事と、さまざまな	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動、部活動、学校行事等において、それぞれが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現への意識が芽生え、学習意欲が向上した生徒の様子が見られた。一方で、本校での生活サイクルに</li> </ul>

体的に行動できる生徒の育成	ことに前向きに取り組む姿勢を育む。	熱量を持ち、前向きに取り組む姿勢を醸成できるように支援する。	慣れてきたことで、授業や小テストを「こなす」生徒が増えたように感じる。今後も生徒が前向きに学習できるような働きかけを継続したい。 ・部活動では最高学年として意欲的に活動する様子が見られた。引退までしっかりとやり切ることができるように支援を継続していきたい。 ・学校行事では各クラス特色のある取り組みを企画した。各々が役割を持ち、自己有用観を高める様子が見られた。
	学習と進路目標の設定に、主体的に取り組む力を育む。	・さまざまな進路行事を通して興味関心を醸成し、主体的に進路目標を設定できるように支援する。 ・進路目標から自らに合わせた学習スタイルを確立できるように支援する。	・オープンキャンパスや進路講話、模試の受験を通して自身の進路について考えを深めようとする姿勢が多く見られた。生徒への情報提供と個別の面談を通して、生徒の進路選択の支援を継続していく。 ・進路実現への意識を学習へとつなげ、粘り強く学習に取り組むことができるように、授業や面談を通して支援を継続していく。
第3学年 それぞれの「個性」を活かした校訓「活力」にもとづく生徒の育成	学習活動、部活動、学校行事とさまざまなことに前向きに取り組む姿勢を育む	・学習活動、部活動、学校行事等に前向きに取り組む姿勢を育み、個性を活かして主体的に行動できる人材の育成を目標に支援する。	・文化祭・体育祭では特徴のある企画・発表を準備するなど前向きに取り組むことができた。部活動でも最後の大会までしっかりと活動する生徒が多く見られた。 ・学習活動ではこれまでの生徒に比べ、補習・土曜学習などの学校の学習活動より、個人の希望する学習法を中心に考える生徒が増えたように感じる。全体としてより効果を高めてきた興道のこれまでの学習スタイルは、どこかでその変更が必要とされる時がくるかもしれないと感じた。
	進路実現に向けて目標を設定し、具体的な学習計画を立案してそれを実行する意志を育む	・目標設定と学習計画立案のために適切な助言をおこなう。 ・前向きに学習に取り組む姿勢を育み、困難に対して強い意志をもって乗り越えてゆけるよう、個性に合わせた支援をおこなう。	・進路実現のための学習計画を立案する際、生徒に対して客観的な立場から先生方には多くの助言をさせていただいた。ただ、生徒は自らの現実を直視できず理想を求める傾向があり、少しずつその差を埋めるように面談を重ねていくことができた。 ・徐々に生徒の学習に対する姿勢の変化が見られ、共通テストではこれまでの努力の成果を発揮する生徒もあった。最後まで諦めずに試験に取り組むことができるよう、最後まで支援を継続したい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動、また日頃の授業の中でのグループワークなどを通し、自己の特性を発揮しながら他者と協働することで、自己有用感を育み、非認知能力を高める教育活動に取り組むことができた。</li> <li>・新教育課程に基づき、生徒の学習に対する振り返りとそれに基づく授業改善というサイクルの確立を目指して、各教科が工夫しながら指導と評価の一体化を進めることができた。</li> <li>・一人一人の生徒の将来を見据え、各自に適した進学先を提案するため、時間をかけて進路検討会を実施し、生徒や保護者との面談を丁寧に行うことで、生徒のニーズに応えた進路実現を図った。</li> <li>・特別支援教育委員会を週ごとに開催し、管理職、保健部、生徒指導部、教務部、各学年で、支援が必要な生徒に関する情報を共有することにより、必要に応じた組織的な対応ができた。</li> <li>・教員自身がICT機器を活用できるよう、研究授業や研修などに組織体に取り組む一方で、生徒に対してはICT機器の活用を推進し、主体的な学びと自立的な学習習慣の定着を図った。</li> <li>・行事日程の見直しをしたり、退校時間の徹底を呼び掛けたりすることなどを通して働き方改革を進め、職員の健康維持を図った。</li> </ul>		